

(別紙 4)

宮城県における効果的な捕獲に係る技術開発評価報告
(効果的捕獲促進事業)

1 対象指定管理鳥獣の種類及び技術名

指定管理鳥獣名	ニホンジカ
技術名	低密度地域における効果的な捕獲方法の検討

2 現状の指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲の状況及び課題等

県では、ニホンジカが高密度で分布している地域を中心に本事業で捕獲を行っており、令和5年度は908頭を捕獲した。

しかし、ニホンジカの分布域は拡大傾向にある一方、分布辺縁は低密度となり捕獲効率が悪いことから、捕獲方法の低コスト化及び省力化を図り、更なる生息分布の拡大を防止していく必要がある。

3 開発技術の具体的な内容等

1 生息状況等調査

- ・ ライトセンサス、自動撮影カメラ設置、及び麻酔銃による生態捕獲を行い、低密度地域における生息分布及び行動範囲を特定するもの。

2 ICT を用いた効果的な捕獲方法の実証

- ・ 捕獲方法の省力化のため、ICT 監視・給餌システムを用いた小型囲い罠による捕獲実証を行うもの。

3 GPS を用いた生息適地（出没可能性）及び嗜好性の高い環境要因の推定

- ・ 生態捕獲個体の GPS 情報及び環境 GIS 情報より、低密度及び高密度地域におけるニホンジカの生息適地（出没可能性）及び嗜好性の高い環境要因を推定し、適切な設置場所の選定等に役立てるもの。

注1：開発技術の具体的な内容については、技術の特徴、導入効果、成果目標、有効性、普及性、既存の技術との比較など分かりやすく記述すること。

注2：開発する技術の仕組み等が分かる資料を添付すること。

注3：事業終了後の評価報告においては、注1を踏まえ、その評価結果を具体的に記入すること。

4 その他

- 本事業は、令和4～5年度の二カ年で実施した。
- 結果、従来ニホンジカが生息していなかった地域における分布を確認したが、個体数は少数かつ特定地域にとどまっている様子であり、さらなる拡大の兆しは確認されなかった。
- ICT を活用した効果的な捕獲方法について、ニホンジカの誘引及び撮影に成功したものの、捕獲には至らなかった。低密度地域では警戒意識が高く、また、餌が豊富で誘引効果が低いためと考えられる。
- 生息適地及び嗜好性の高い環境要因について、嗜好性の高い環境要因が推定され、また、両地域間で差が認められたことから、今後、指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲効率向上のため、受託者に提供する等活用する予定である。

注1：地域実証に当たって、特記すべき事項があれば記入すること。

注2：事業終了後の評価報告において、特記事項に対するコメントがあれば記入すること。